

川島グループ、経常益55億円

前期、減収減益も高水準



川嶋代表

非鉄総合商社、川嶋

(本社＝浜松市、川嶋義勝代表)を中心とする川島グループはこのほど、2023年3月期連結決算(速報ベース)が売上高で800億円前後、経常利益で55億円程度となる見通

しを示した。21年度比で減収減益となるが、金属価格の高騰や、非金属事業が堅調に推移したことなどが貢献した。

同グループの連結決算はグループ各社の決算時期に差異があるため売上高、経常利益共に概算での計上になる。上期は金属市況の高騰などを受けて金属関連事業が堅調推移し、非金属事業でもゴルフなどのレジャー事

業やシニアカー事業が好調で、業績に貢献した。だが、下期は金属市況が一服感を生じたことや、自動車減産や半導体関連産業の景気減速などを受け、伸び悩み、通期では過去最高であった前期を下回った。

ただ、20年度実績の売上高約670億円、経常利益約33億円と比較した場合、22年度は依然として大きく上回る水準にある。シニアカーやレジャー事業など、非金属事業の堅調推移が利益水準を支えたとみられる。なお、24年3月期は売上高750億円、経常利益で50億円を見込む。

同グループはアルミ精錬や貴金属スクラップのリサイクル・リユースなど非鉄金属関連分野で、幅広く事業を展開する総合非鉄リサイクル企業グループ。近年では不動産、レジャー、介護など金属以外にも幅広い分野で事業を展開している。